

## 「平成22年度第3回富県宮城推進会議幹事会」会議録要旨

日 時：平成23年2月14日（月） 午後1時30分～午後3時

場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

出席団体：資料名簿のとおり

### 1 開会（司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 鈴木副参事）

### 2 あいさつ（宮城県経済商工観光部 吉田次長（代理））

- 経済雇用情勢が先行き不透明であるが、本日の内閣府の発表によると平成22年の国内総生産が名目、実質ともに対前年比プラス成長であった。
- 本県の経済雇用関係の取組として、金融面では緊急保証、雇用面では雇用調整助成金の制度があった。そのほか、基金による緊急雇用創出事業を行い、概ね景気の下支え効果があったと認識している。雇用調整助成金では、ピーク時は平成21年度で月当たり2.1万人であった。最近は1万人を下回るころまで改善されてきた。基金による緊急雇用創出数では、延べ1.5万人分に上る見込みである。また、緊急雇用訓練では、約4千人の訓練を上回る見込みである。
- このように一定の下支え効果が感じられるところではあるが、高校生に対する求人数にはまだ至ってきていないと感じている。景気変動だけではなく、構造的な要素もあると思うが、高校生の求人数が伸び悩んでいる。このような状況ではあるが、今年度は高校生の求人に対して、例えば、県南部ではフジパングループ本社、県北部では豊田鉄工などが、まとまった求人を出していただき、学校関係者からは大変ありがたかったとの声をいただいている。
- ものづくり企業での高校生の求人は、徐々にではあるが回復してきているものの、仙台地区を中心に全体的な回復には至っていないので、苦しいところもある。このような状況で、今年1月にはセンทรัล自動車が操業を開始するニュースがあり、4月には東京エレクトロンが操業を開始する予定であり、明るい話題も出てきている。
- 産業基盤の整備面では、昨年12月に東北自動車道の大衡インターチェンジを供用開始したほか、仙台塩釜港の雷神埠頭及びモータープールが完成するなど、「富県宮城の実現」に向けた様々な取組の成果が目に見える形になって着実に現れ始めている。
- こうした時機を捉えて、「富県宮城の実現」に向けた取組をさらに加速し、様々な産業分野に広く効果を波及させ、県内経済の全体的な発展につなげていくことが重要であり、引き続き産学官が一体となって取り組むことが期待されているので、皆様には一層の御理解と御協力をお願い申し上げる。
- 本日の幹事会では、県から『富県宮城の実現』に向けた平成22年度の主な取組と成果』や「平成23年度宮城県当初予算（案）」などを報告するとともに、「平成23年度富県宮城推進会議における『宣言文』の取扱いや「平成22年度『富県宮城グランプリ』表彰」について、御審議いただくこととしている。
- 有意義な会議となるよう、活発な御議論をお願いする。

### 3 幹事長選出

※ 議長代理として、白幡副幹事長（（社）みやぎ工業会特任顧問）が進行。白幡副幹事長の

推薦のもと、満場一致で数井幹事（東北大学理事）が幹事長に選任される。

#### 東北大学 数井理事<幹事長>

- 「富県宮城の実現」については、村井知事の強力なリーダーシップのもと、本県経済の活性化を図り、富める県にするべく各経済団体、学術団体、行政機関が一丸となって取り組んでいる。
- 幹事会では、その「富県宮城」の推進に向けて、相互の情報交換や意見交換をすることにより、これを確実に進めるよう取り組んでいく。
- 皆様方の御尽力を賜りながら幹事会を運営していく所存であるので、よろしくお願い申し上げます。

#### 4 報告

- (1) 「富県宮城の実現」に向けた平成22年度の主な取組と成果について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長）より、資料2に基づき説明
  - ⇒ 質疑・意見等なし
  
- (2) 平成23年度宮城県当初予算（案）及び「みやぎ発展税」の活用施策（案）について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長）より、資料3に基づき説明
  - ⇒ 質疑・意見等なし
  
- (3) 富県創出モデル事業について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長）より、資料4に基づき説明
  - ⇒ 質疑・意見等なし
  
- (4) 地域懇談会の開催概要について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長）より、資料5に基づき説明
  - ⇒ 質疑・意見等なし

#### 5 議題

- (1) 平成23年度富県宮城推進会議における「宣言文」について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長）より、資料6に基づき説明
  - ⇒ 平成23年度も富県宮城推進会議として「宣言文」を取りまとめていくことでした。第2回富県宮城推進会議に付すことになった。

報道関係者及び一般傍聴者退席
----------------

- (2) 平成22年度「富県宮城グランプリ」表彰について
  - ※ 事務局（松田富県宮城推進室長、鈴木富県宮城推進室副参事）より、資料8及び資料9に基づき説明
  - ※ 「富県宮城グランプリ」表彰については、個人情報等が含まれるため、報道関係者及び一般傍聴者退席の上で協議した（「富県宮城グランプリ」表彰に係る発言要旨については、以上の理由から記載省略）。

## 6 その他

### 東北大学 数井理事<幹事長>

- 今回から、構成団体間の積極的な情報交換を図るため、「富県宮城の実現」に係る情報提供を希望団体からしていただく場を設けた。
- 今回、情報提供するのは宮城県観光誘致協議会、東北大学、東北経済産業局、宮城県の4団体である。それでは、名簿順に情報提供をお願いする。

### 宮城県観光誘致協議会 (株)JTB東北 小泉副支店長(代理)

- 宮城県観光誘致協議会では、今年度、インバウンド部会を設立した。外国人観光客の誘致活動をより積極的に実施していくので、今後、富県宮城推進会議構成団体の皆様方で連携していただければ、その連携を深め、外国人観光客の誘致活動を進めてまいりたい。

### 東北大学 数井理事<幹事長>

- 東北大学では、昨年8月に、次世代移動体システム研究会を学内に設立した。この研究会には、ロボティクス、電気、機械、情報通信、材料、ライフサイエンスなどの分野が入っており、環境や安全に配慮した新しい次世代移動体システムの開発及び実証試験のための組織として、水素燃料電池、モーターに使われる磁石のレアアースの低減技術、安全な運転支援システムの構築などを行っている。
- KCみやぎ推進ネットワークに先月26日付けで参画した。地域の自動車産業や高度電子機械産業において、企業が抱えるニーズに東北大学としても貢献したいということで参画した。先月27日には、地域の企業等との意見交換会を開催した。ものづくり、情報通信、農業分野の方が参加し、東北大学の活動紹介を行ったほか、参加者からの意見をいただいた。今後、ものづくり、情報通信、食と農などの分野にフォローアップの形で、地域の企業への情報提供や意見交換を進めたいと思っている。

### 東北経済産業局 新井総務企画部長

- 経済産業省では2010年度予算の予備費を財源とし、環境関連分野の補助金として、将来の大きな成長と雇用創出が期待できる「グリーン産業」(エコカー、リチウムイオン電池、LED)など、環境関連分野の国内向けの工場立地を支援する事業として、設備投資に対する補助を実施している。
- 全国では285件の申請に対して153件の採択があり、うち東北では35件の申請に対して19件を採択した。宮城県内では、東北部品、アイシン高丘東北、トヨタ自動車東北の3件で、すべてエコカー等の製造に関する設備投資である。この補助により、企業の集積や雇用の創出に寄与するものと考えている。
- 2011年度予算では、革新的低炭素技術集約産業の国内立地の推進として、リチウム電池やLEDなどのCO2削減に向けた生産技術を確立するための最初の生産ラインに対する補助を行い、新たに71.4億円を予算措置している。

### 宮城県 狩野港湾課技術補佐

- みやぎ45フィートコンテナ物流特区の取組について紹介させていただく。

- 現在、海外との貨物の輸出入では、コンテナが主流となっている。国内では12フィートコンテナのほか、20フィートコンテナ、40フィートコンテナが利用されているが、国際規格で認証されている45フィートコンテナについては、法令で規制されているため、利用されていない。
- 45フィートコンテナは40フィートコンテナに比べ1.5m長く、貨物を3割程度多く積むことが可能であるため、プラスチック製品や衣料品、タイヤ等の比較的軽い貨物を輸送するのに有利であり、アメリカと中国の間では、取扱量が近年増加するなど、世界的に広がりを見せている。
- 日本国内においても、コスト削減やCO2削減の観点から荷主企業から45フィートコンテナの利用を要望されるが、現在の基準では公道走行には前後に誘導車を配置する必要があるなど、一般的な利用が難しい状況となっている。
- 「みやぎ45フィートコンテナ物流特区」は、県内の全域を特区として指定し、仙台塩釜港と県内の荷主企業との間を45フィートコンテナの公道走行を可能とするものである。
- 昨年7月に本県が、構造改革特区の項目として提案し、10月にメニューとして加えられた。11月には、(社)東北経済連合会が主体となり、社会実験を行い、公道走行に支障がないことを確認している。
- 今年2月3日には特区の申請を行った。今回の申請は3月に認められる見込みとなっており、4月から公道走行が可能となる予定である。県では45フィートコンテナの普及に向けて、5月には財政支援等が受けられる総合特区についても応募する予定である。
- 荷主企業のコスト縮減やCO2削減に寄与できるよう、ポートセールスに取り組んでいく。

#### 東北大学 数井理事<幹事長>

- 以上、4団体から「富県宮城の実現」に向けての最近の取組について情報提供があったが、御質問はいかがか。
  - ⇒ 質疑・意見等なし

#### 次回の推進会議と平成23年度のスケジュール(案)

※ 事務局(松田富県宮城推進室長)より、以下の2点について説明

- ① 第2回富県宮城推進会議の開催スケジュール
  - ⇒ 平成23年3月18日に開催予定。委員の日程調整をお願いする。
- ② 平成23年度のスケジュール(案)
  - ⇒ 資料7に基づき説明
  - ⇒ 質疑・意見等なし

#### 7 閉会